

# 第1号議案 平成18年度事業報告(案)及び決算報告(案)承認の件

## I. 平成18年度事業報告

(概況)

平成18年度事業計画にしたがい、皆様のご支援、ご協力のもと、公益法人として、これまで以上に会員に役に立つサービスが提供できる学会に発展させるべく、講演会・セミナー・シンポジウム・キャンパスビジット・研究開発コンソーシアム等を実施するとともに、推進してきたWEBを活用した学術講演会の運営、会誌の電子ジャーナル化にも着手いたしました。また、一層の国際化を進めるべく、海外関連学会との関係を拡大・強固にするとともに、会誌の共同出版も継続いたしました。

さらに、会員へのサービスの拡大を図るため、事務局を会員が集まり易い都心に近かつ駅に近い現在地へ移転し、事務局内に会議スペースも整えました。これにより、理事会、運営幹事会、各種委員会を事務局で開催することで学会活動の情報を事務局に集中し、機動的な学会運営を図るとともに、会員の皆様が気軽に事務局を訪れ、意見交換することができる環境を整えました。

以下に平成18年度の活動状況の詳細をご報告いたします。

### 1. 学会事業活動

#### 1) 研究発表会、講演会等の開催

以下の講演会、セミナー、シンポジウム等を実施した。

##### 第114回 学術講演会

開催日 平成18年5月8日(月)～5月10日(水)

開催場所 早稲田大学(東京)

特別講演 2件

「A New Approach for High Resolution Seismic Surveying」

Dr. James Martin (Schlumberger 開発センター 所長)

「今後の大学法人の課題」

齋藤 徳美(物理探査学会副会長, 岩手大学副学長)

一般講演 68題      ポスターセッション 7題      参加者 222名

##### 第115回 学術講演会 (WEBを活用した運営を開始)

開催日 平成18年10月16日(月)～10月18日(水)

開催場所 KKR 博多(福岡市)

特別講演 2件

「地中熱利用の研究から地震活動予想の研究への展開」

—研究におけるセレンディピティの一例—

江原 幸雄(九州大学工学研究院 教授)

「MAGDASによる宇宙天気研究」

湯元 清文(九州大学宙空環境研究センター長 教授)

一般講演 64題      ポスターセッション 18題      参加者 151名

##### 第8回 国際シンポジウム

開催日 平成18年11月26日(日)～28日(火)

開催場所 京都大学百周年時計台記念館      参加者 202名

・チュートリアル :11月24～26日 <10テーマの講義を実施>

・一般講演 :11月26～28日      発表件数 124件

・特別セッション :11月27日 <エネルギーピークに関する一般公開講演>

平成 18 年度 物理探査セミナー

開催日 平成 18 年 6 月 27 日(火)~6 月 29 日(木)

開催場所 産総研臨海副都心センター(東京) 参加者 57 名

SEG Distinguished Instructor Short Course (DISC)

テーマ 「Seismic Attribute Mapping of Structure and Stratigraphy」

Dr. Kurt Marfurt (University of Houston)

開催日 平成 18 年 7 月 13 日(木)

開催場所 産総研臨海副都心センター(東京) 参加者 52 名

平成 18 年度 VIP セミナー

テーマ 「二酸化炭素の地中貯留と物理探査」

松岡俊文(物理探査学会会長, 京都大学教授)

開催日 平成 18 年 5 月 8 日(月)

開催場所 早稲田大学(東京) 参加者 58 名

平成 18 年度 キャンパスビジット

テーマ 「物理探査の適用」

開催日 平成 18 年 11 月 14 日(金)

開催場所 早稲田大学(東京) 参加者 33 名

平成 18 年度 ワンデーセミナー

テーマ 表面波探査と微動探査

開催日 平成 19 年 1 月 26 日(金)

開催場所 応用地質(株)つくばオフィス 参加者 42 名

2) 会誌発行

学会誌「物理探査」Vol.59 No.1~Vol.59 No.6 の 6 冊を発行。そのうち Vol.59 No.1 は豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同出版。

また、学会誌の内容改革を継続するとともに、論文集発行の電子化を目指し、電子投稿、Vol.59 No.6 からは印刷所への電子入稿を開始。

3) 名簿の発行

名簿を平成 18 年 6 月に発行。

4) 出版物の頒布

(1) 物理探査ハンドブック 52 冊

(2) 物理探査適用の手引き(とくに土木分野への利用) 44 冊

(3) 物理探査適用の手引き(英文) 61 冊

(1)~(3)の出版物について上記冊数を頒布した。

5) コンソーシアム活動

コンソーシアム活動は、特定の目的に対して期間を定め集中して調査・研究開発および関連の受託業務を行うものである。平成 18 年度は下記の活動を行った。

(1) 業務受託活動

①「物理探査活動データベースにかかるアンケート調査並びにデータ整理作業」

(独)産業技術総合研究所から標記業務を受託し、実施した。この業務は、今後継続して受託できる見通しである。

②「河川堤防の統合物理探査適用マニュアル素案検討業務」

(独)土木研究所から標記業務を受託し、実施した。この業務は、平成 19 年度も継続して受託できる見通しである。

③「高精度物理探査技術高度化調査(ピアレビューと技術評価)」

(財)原子力環境整備促進・資金管理センターから標記業務を受託し、実施した。この業務は学会としては新たな取り組みであり、今後この種の業務の増加が期待される。

6) 研究会活動

研究会とは、物理探査技術の特定の目的に対して学会員の有志によって広く継続的に研究を行う集まりであり、地盤探査研究会、電気探査研究会、地震防災研究会の 3 研究会がある。平成 18 年度は以下のとおり、計 3 回の講演会、シンポジウムを実施した。

平成 18 年度 地盤探査研究会講演会

テーマ 「電気・電磁探査の3次元調査」

開催日 平成 18 年 9 月 6 日(水)

開催場所 (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構川崎本部 参加者 44 名

平成 18 年度 地盤探査研究会・電気探査研究会講演会

テーマ 「構造物の診断・メンテナンス」

開催日 平成 18 年 12 月 8 日(金)

開催場所 早稲田大学(東京) 参加者 28 名

平成 18 年度 地盤探査研究会・地震防災研究会シンポジウム

テーマ 「コンクリート構造物の非破壊診断」

開催日 平成 19 年 2 月 2 日(金)

開催場所 早稲田大学(東京) 参加者 57 名

7) 研究業績の表彰等

(1) 名誉会員

平成 18 年度総会において 2 名が名誉会員に推薦された。

・飯塚 進 ・小林 芳正

(2) 物理探査学会賞

平成 18 年度総会において学会賞 2 件、奨励賞 2 件を表彰した。

・物理探査学会賞

受賞者 馮 少孔 (中央開発株式会社)

杉山 長志 (中央開発株式会社)

山中 浩明 (東京工業大学)

対象論文 馮 少孔・杉山 長志・山中 浩明「微動アレイ探査における多地点同時逆解析」物理探査, 56 巻 1 号 1-11 頁.

馮 少孔・杉山 長志・山中 浩明「Effectiveness of multi-mode surface wave inversion in shallow engineering site investigations」物理探査, 58 巻 1 号 26-33 頁

受賞者 林 宏一 (応用地質株式会社)

鈴木 晴彦 (応用地質株式会社)

対象論文 林 宏一・鈴木 晴彦「CMP cross-correlation analysis of multi-channel surface-wave data」物理探査, 57 巻 1 号 7-13 頁

・物理探査学会奨励賞

受賞者 中内 啓雅 (大阪ガス株式会社)

対象論文 中内 啓雅、他「水平ボーリング搭載レーダ用リアルタイム画像処理の開発」物理探査, 58 巻 5 号 475-490 頁  
受賞者 三善 孝之 (京都大学大学院)  
対象論文 三善 孝之、他「3次元格子ボルツマン法の並列計算による多孔質岩石内の流体流動解析」物理探査, 57 巻 6 号 697-708 頁

### (3)永年在籍表彰

平成 18 年度総会において正会員4名(石井英二、伊藤公介、岸 允、武居由之)、賛助会員8社(30年表彰:株興和、ジオテクノス株、田村ボーリング株、ニタコンサルタント株、三井金属株、株村尾地研、資源開発株、及び、50年表彰:極東貿易株)をそれぞれ表彰した。

## 8) 関連学術団体との連絡及び協力

### (1)他学会との講演会協賛

平成 17 年に日本地球惑星科学連合に加盟し、平成 18 年度の連合大会(5 月 14 日～18 日開催)では、当学会に関連したセッションとして 3 つが開催された。その他、(社)資源・素材学会、(社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(社)日本地震学会、日本応用地質学会、(社)地盤工学会、計測自動制御学会、石油技術協会等、関係の深い学会と講演会等で互いに後援・協賛をした。

### (2) 継続教育活動支援システムについて他学会との協同運営

平成 18 年度は、事業委員会内において、技術士継続教育活動について、関係7学協会と生涯学習支援システムの共同運営を継続し、活動した。

## 9) 国際交流

以下に示す国際交流を実施した

- (1) 環境土木物理探査学会(EEGS)に参加(4 月 2 日～6 日)
- (2) 欧州物理探査学会(EAGE)に参加(6 月 12 日～15 日)
- (3) 韓国物理探査学会(KSEG)シンポジウム招待講演(9 月 15 日)  
SEGJ 代表者講演(会長)
- (4) 米国物理探査学会(SEG)に参加(10 月 1 日～6 日)  
ブースにて展示, Annual Council Meeting に出席(会長、他)

## 10) 臨時委員会

### (1) 標準化検討委員会

物理探査の普及と標準化を図るため「物理探査適用の手引き」の全面改訂に取り組み、タイトルを「物理探査および物理検層の基本とマニュアル」として継続活動中である。

### (2) IT 化改革委員会

学会の活性化を図るため、新たに委員会を設立し、学会業務の IT 化を推進した。

## 11) 広報活動

ホームページの全面改訂、会員の情報交換を加速するための会員専用イントラネットの構築、WEBの改革に取り組んだ。

## 2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

### 1) 通常総会

平成 18 年 5 月 9 日、東京 早稲田大学国際会議場にて開催。

### 2) 理事会

平成 18 年度中に 7 回開催。

(平成 18 年 4 月、5 月、6 月、10 月、11 月、平成 19 年 1 月、3 月)

### 3) 運営幹事会

平成 18 年度中に 4 回開催。

(平成 18 年 7 月、9 月、12 月、平成 19 年 2 月)

## 3. 会員の状況

会員の現況(平成 19 年 3 月 31 日現在)

	平成 19 年 3 月末	平成 18 年 3 月末	増 減
名誉会員	27	26	1 名増
正 会 員	1433	1460	27 名減
(うち学生)	61	65	4 名減
賛助会員	144 社 302 口	145 社 302 口	1 社減

職場班 68 班

## II. 平成 18 年度決算報告

平成 18 年度の予算作成に当たり、厳しい財政状況を建て直すため、基金を取り崩し、思い切った財政改革に取り組むこととお約束し、精力的に財政改革に取り組みました。学術講演会はもとより、その他全ての行事に対して可能な限り無駄を省きました。平成 18 年度に開催した国際シンポジウムでは、文部科学省、(社)地学協会、井上科学振興財団からそれぞれ補助金を頂き、200 名を超える参加者による盛大なシンポジウムを開催することができ、かつ、財政改善にも大いに寄与するところとなりました。管理費についても徹底的な削減を図りました。また、平成 16 年度から取り組んできた WEB の改革を含めた学会業務の IT 化をさらに推進し、学術講演会の申し込み受付、論文集原稿の電子投稿、処理、並びに会誌原稿の電子投稿、印刷所への電子入稿等を可能にし、それによっても経費の削減を図ることができました。

さらに、平成 18 年度は、(独)産業技術総合研究所、(独)土木研究所、(財)原子力環境整備促進・資金管理センターからの業務の受託もあり、これらも財政改善に大いに寄与しました。

その結果、予算作成時には年度収支マイナスの見込が、300 万円余のプラス決算となりました。

まだまだ当学会の財政は厳しい状況にはありますが、財政改革の初年度としては、かなりの成果が上げられたものと思っております。

今後とも、精力的に財政改革に取り組む所存でおりますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。